

Q&A よくあるご質問

Q. SalivaChecker®は定期的に受けたほうが良いですか？

A. 本検査は、だ液を採取した時点でのがんのリスクを調べる検査です。生涯にわたってのリスクを予測するものではありませんので、定期的を受けていただくことをお勧めします。

Q. SalivaChecker®は必ずがんを発見できるのですか？

A. 本検査は、がんを診断するためのものではなく、検査を受けた時点でのがんのリスクを調べる検査です。高いリスク値が出てがんの発見につながる場合もある一方で、リスク値が低い場合でもがんがある可能性もあります。リスク値が高い場合には、検査を受けた医療機関または検査後の相談ができる医療機関にご相談いただくことをお勧めします。

その他Q&AはWebサイトをご覧ください。

[検査開発元/検査・測定機関]

Saliva Tech

株式会社サリバテック

E-mail info@salivatech.co.jp

URL <https://salivatech.co.jp/>



検査販売元



株式会社ビー・エム・エル

医療機関

©2016 SalivaTech Co.,Ltd. all rights reserved.
本資料の改変や、掲載してある文章やイラスト等の無断転載を禁じます。

2023.06 「サリバチェッカー四つ折りリーフレット BML」

検査の流れ

1 検査はだ液を少量ですだけ

採取は2～5分程度で終わります。

0.1cc



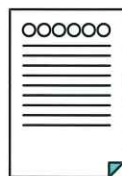
2 検査所にてだ液成分を測定

だ液中のがん特有の代謝物の濃度を解析します。



3 検査結果を受け取る

検査実施日より約3週間で医療機関へ結果を提供します。検査を受診された方へお渡しするまでの期間は各施設ごとに異なります。



だ液採取前の注意事項

だ液は午前中に採取してください。

※下記注意事項を遵守できなかった場合、検査結果に影響を及ぼす可能性がございます。

検査方法をWEBでチェック! →



検査2日前～
豆類 ナッツ類 シジミ
を原材料とした サプリメント 健康食品
の摂取をしない。

■以下の食品の過剰摂取は控え、
1日あたりの摂取量を守る。



※コーヒー、小豆は摂取可能。シジミ以外の貝類は摂取可能。

検査前日

夜9時以降※1、水以外の飲食をしない。
薬を服用しない※2。

※1 採取の12時間前を目安とします。

※2 薬を服用中の方は、事前に医師等にご相談ください。

検査当日

朝食をとらない。薬を服用しない。

×入れ歯安定剤 ×ガム、飴、トローチ

※服用した場合、医師等にお伝えください。

検査1時間前

歯みがきは採取1時間前までに済ませる。

×激しい運動 ×喫煙

×出血をとまうような口腔内の手入れ
(歯ブラシ、歯間ブラシ、爪楊枝など)

×うがい薬

検査直前

採取15分前前にコップ半分(100mL)程度の水を飲む

※他の検査で水分を摂取できない場合は軽く口をゆすぐ。

※口紅、リップクリームは検査前にふきとる。

その他の
注意事項

体調が悪い(風邪、発熱、炎症等)場合は回復してから受検をお勧めします。妊娠中または授乳中の方、6か月以内に手術を受けた方はリスク評価結果が影響を受ける可能性があります。

どうしてだ液でがんのリスクがわかるの？

早期発見

ステージ0、1のがんでも発見できる可能性があります。



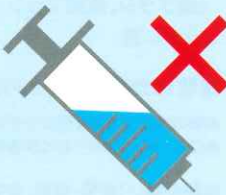
手軽

だ液を数滴だすだけ。手軽に検査を受けられます。



痛くない

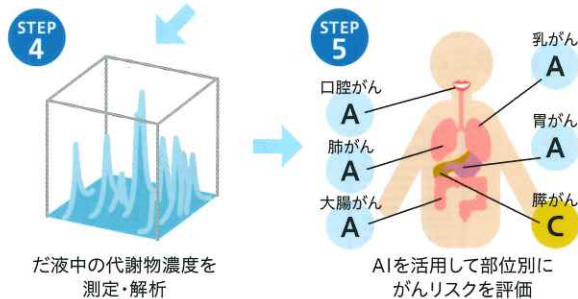
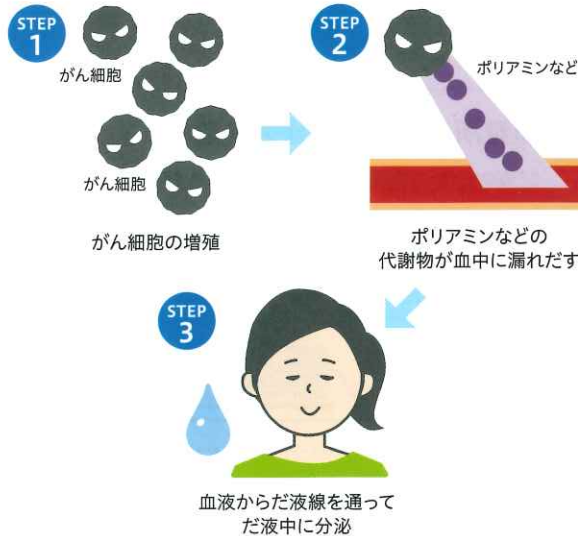
痛みが苦手な方でも安心して受けられます。



がん細胞からしみ出す代謝物がだ液に表れるからです。

だ液中の成分の大部分は血液由来です。がん細胞からしみ出す代謝物は血管を通り、だ液中に表れます。

サリバチェッカーはこれらの代謝物を測定し、AI(人工知能)を利用して、被検者の方の代謝物のパターンががんの方とそうでない方のどちらに似ているかをがんの種類ごとに評価します。



なぜだ液を使うの？

代謝物の研究成果とだ液ならではの利便性

代謝物研究で、血液、尿、だ液などを調べたところ、がんの方とそうでない方を見分ける上で、だ液のデータが優れていました。

だ液はどこでも採取可能で、採取しても身体に負担がないため、がんの早期発見に適しています。

だ液検体での研究成果上で



がんの方との有意差が認められた

侵襲性 低
痛くない
身体に負担がない



利便性 高
面倒でない
どこでも採取可能

山形県のバイオテクノロジー研究拠点で開発

サリバチェッカーを開発した株式会社サリバテックは、慶應義塾大学先端生命科学研究所の研究成果をもとに、医療分野での応用と技術開発を進めています。研究施設が隣接する鶴岡市先端研究産業支援センター

を拠点に事業を展開しています。



写真提供：
アジレント・テクノロジー